平成19-21年度　文部科学省 私立大学等経常費補助金特別補助(「教育・学習方法等改善支援」)

日本のバレエ教育に適したバレエ教授法研究
[バレエ学習者の意識調査]編

昭和音楽大学 舞台芸術センター バレエ研究所

Showa
ACADEMIA
MUSICAE

本調査で配布したアンケート表には、
井手真理氏による先行研究
「バレエを習う子供を持つ母親の認識」(2000年)
で作成された質問項目を
使用させていただいております。

バレエ学習者の意識調査

近年、プロのダンサーを目指すバレエ学習者はもちろん、美容、健康促進のために大人になってからバレエを習い始める人など、バレエ人口は確実に増えているといわれています。しかし、こうした印象はバレエ関係者が指導に携わる中での実感や、マスコミからの情報にとどまっており、バレエを習っている人々の意識を客観的にまとめ、広く認知されているデータは見受けられません。

このアンケート調査は、日本でバレエ教育を受ける人々の意識を明らかにし、今後のバレエ普及や多様化するニーズに対応したバレエ教育方法の提案等の助けとなる情報を得ることを目的として実施いたしました。このリーフレットでは、2009年10月に実施した本調査の結果から一部抜粋してご紹介します。

実施概要

予備調査

対　　象／バレエを学習する子供の保護者およびバレエを学習する大人
実 施 校／昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室
実施期間／2008年3月
回 収 数／128 部(質問紙一種)

↓

専門委員会にて調査票の再検討
質問用紙を大人学習者用／子供学習者をもつ保護者用に分ける

本調査

対　　象／バレエを学習する子供の保護者およびバレエを学習する大人
実 施 校／関東のバレエ教室(8教室)
実施期間／2009年10月
回 収 数／大人学習者用87部、子供学習者(18歳未満)の保護者用248部

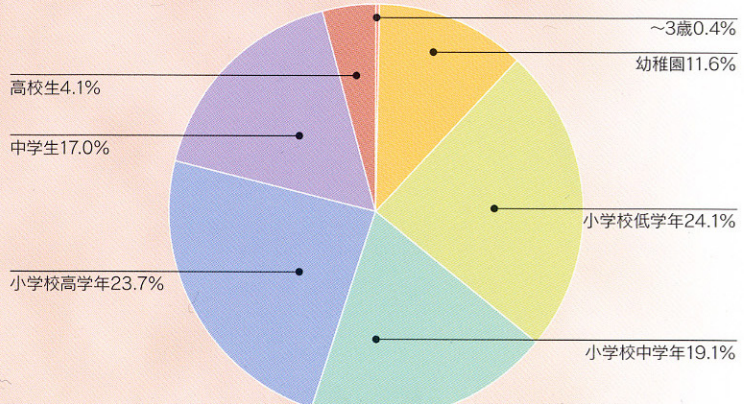
本調査結果 子供学習者の保護者

[女性…98.4%　男性…1.6%]

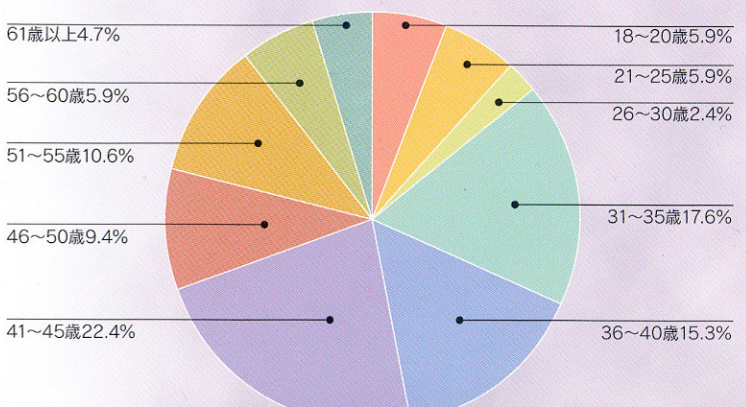
本調査結果 大人学習者

[女性…98.9%　男性…1.1%]

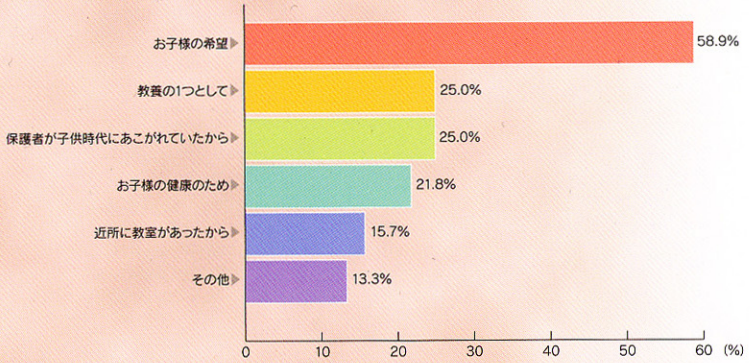
バレエ学習者の年齢(単一回答)



保護者の回答からは、子供学習者は中学校に進学する前にバレエを習い始めている人が非常に多いことが分かる。それに対して大人学習者の回答をみると、21～30歳は10%に満たず、30歳以降の学習者が80%以上を占める。実際に現場で指導をしている人からも、大人の初心者クラスでは20代が少ないという声が多かった。30代以降のほうが時間的・経済的に余裕があるという傾向のあらわれかもしれない。



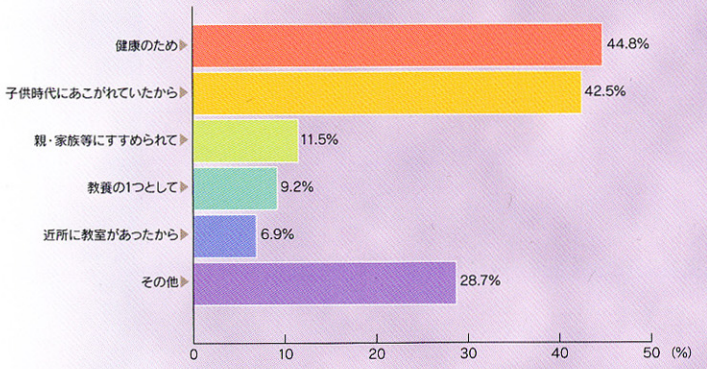
バレエを始めたきっかけ（複数回答）



その他理由■保護者が子供時代に習っていたから／姿勢がよくなるから／姉がやっていた／内股が目立っていたので

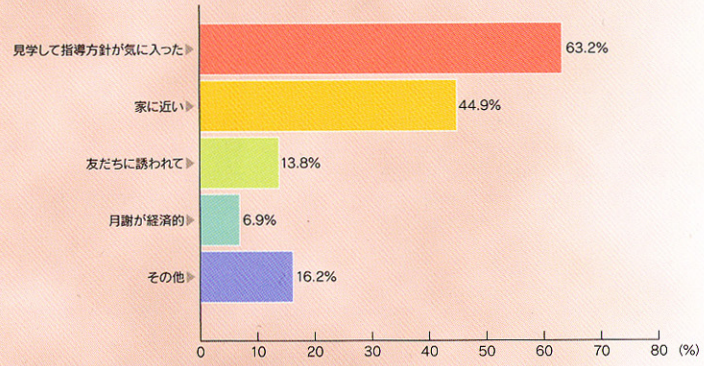
保護者が子供にバレエをはじめさせたきっかけは、子供本人の希望が圧倒的に多いことが分かる。また大人学習者に目を移すと、健康のためという理由がもっとも多く、高年齢の人ほどそれを理由に挙げる人が多かった。

一方で、「バレエを観に行って」というきかっけを挙げているのは子供・大人ともに少なく、バレエ公演を観ることは、バレエを習うことの動機にはあまり結びつかない傾向にあることが分かった。



その他理由■子供の頃に習っていたから／友人の発表会を観て／バレエを観るのが好きだから、バレエ音楽が好き／お友達に誘われて

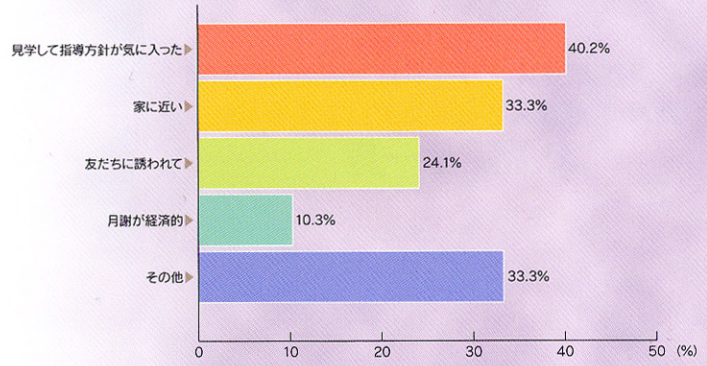
通われているバレエ教室を選んだ理由（複数回答）



その他理由■発表会を見て／身内の者が昔、習っていたから／知人に紹介された為

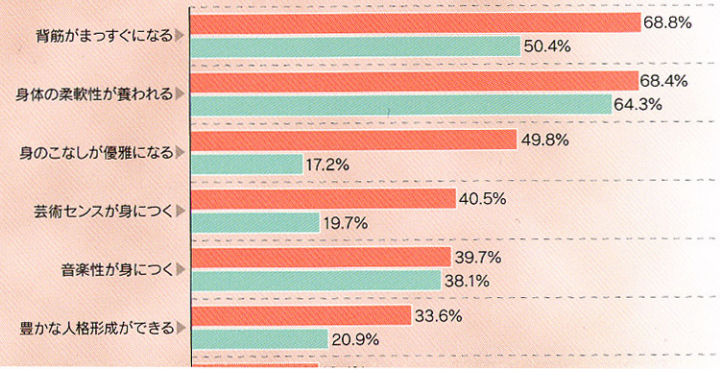
子供学習者の保護者・大人学習者ともに、回答結果が同じ傾向にあることが分かる。双方とも教室を決める際には事前に見学をしている場合が多く、特に保護者の回答では60%以上が事前に見学をしているという結果がでた。子供の要望はもちろん、保護者が安心して子供を任せられるかを重視していることのあらわれではないだろうか。

また、家に近いからという回答も多く、大人学習者の場合はそのほかに勤務先から近いことも理由として挙げられている。通いやすさは子供・大人ともに教室選びの際の重要なポイントとなるようだ。



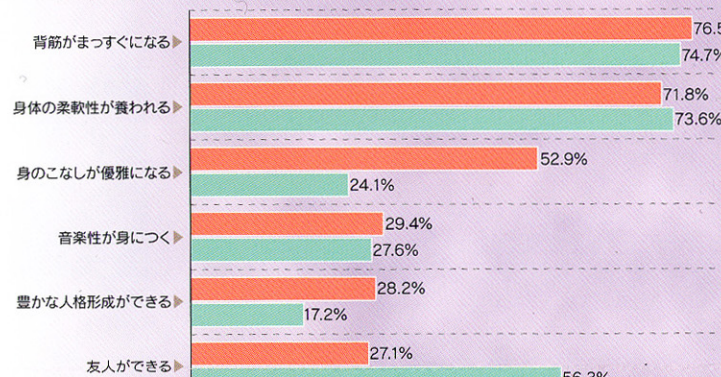
その他理由■会社から近い／学校から近い／先生が尊敬できる人だから／タウンページを見て

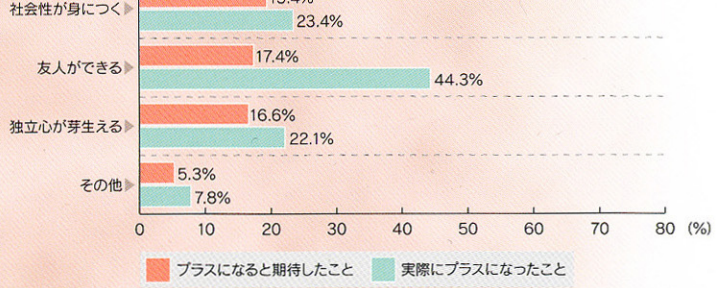
バレエでプラスになると期待したこと／実際にプラスになったこと（複数回答）



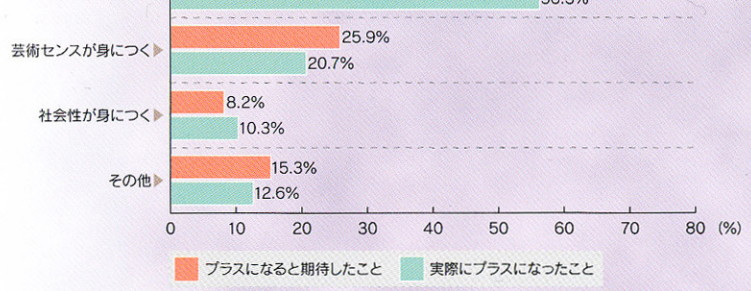
事前に期待したことでは、「背筋がまっすぐになる」や「身体の柔軟性が養われる」といった身体面での要素が多く挙げられ、子供学習者の保護者・大人学習者ともに70%近くが期待したと答えている。また、実際にプラスになったことでもそれらの回答は多く、満足度が高いことがみてとれる。

その一方で、「友人ができる」や、「社会性が身につく」といったコミュニケーション能力にまつわる項目は、事前に期待したことでは子供学習者の保護者・大人

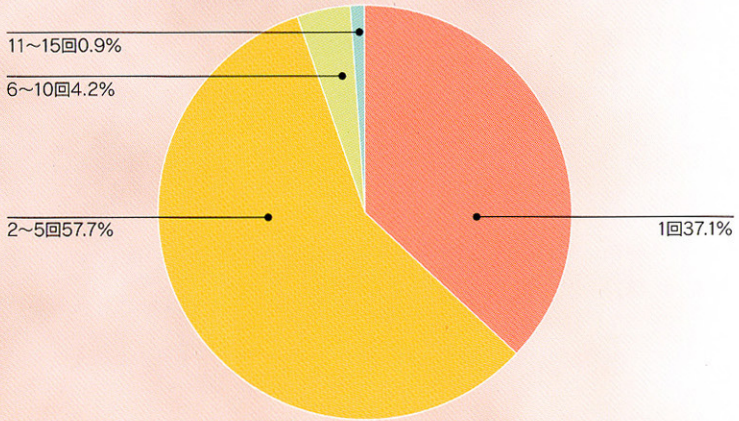




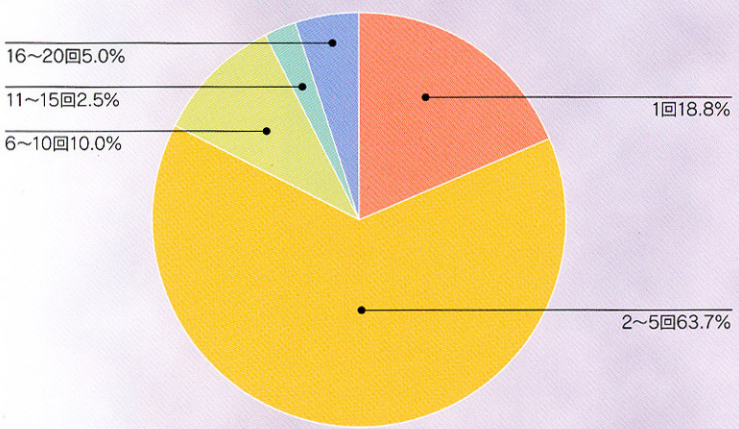
学習者ともにどちらの項目も30%未満にとどまっており、期待値は低いといえる。だが、実際にプラスになったことの回答に目を向けると、双方とも事前の期待を上回る結果となっており、とくに「友人ができる」の項目は2倍以上の人がプラスになったと答えていて、結果として交友範囲をひろげる良いきっかけとなっていることが分かる。



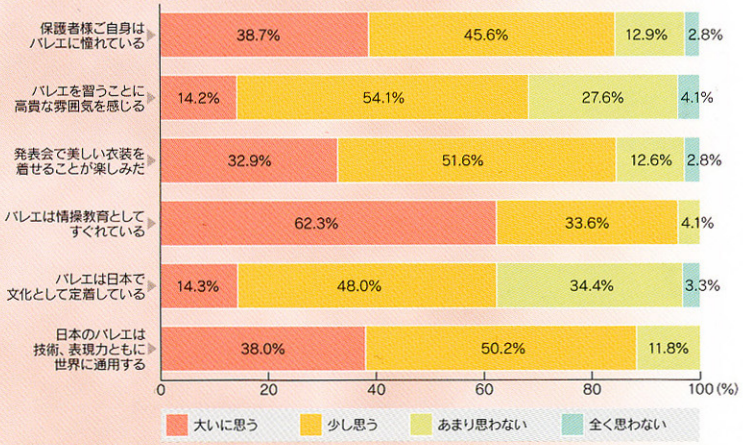
1年間に劇場でバレエを鑑賞する回数(単一回答)



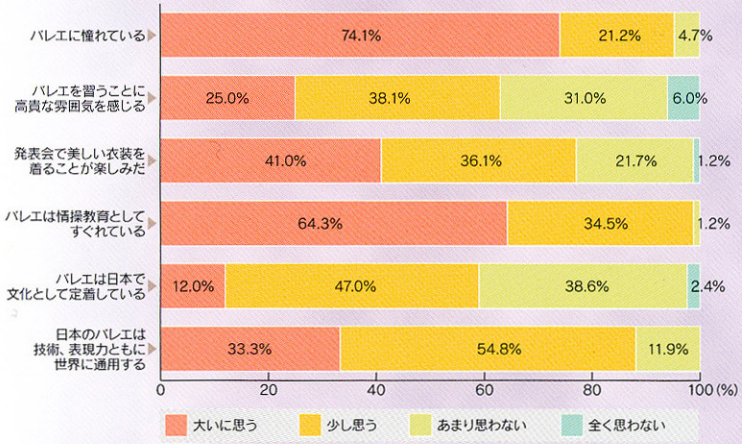
子供学習者の保護者・大人学習者ともに、1年のあいだに劇場にバレエ公演を観に行く回数は2~5回という回答が60%近くを占める結果となった。また、年に1回という選択肢をみると、保護者向けの回答で約40%、大人学習者で約20%となっており、バレエ学習者が生の公演を鑑賞する機会はかならずしも多くないことが分かる。その一方で、1年に6回以上鑑賞するという回答は大人学習者に多く、具体的には勤め人や学生など、金銭的・時間的に余裕のある層ほど鑑賞頻度が高い傾向にあることがわかった。



バレエに対するイメージ(単一回答)



「日本のバレエは技術・表現力ともに世界に通用する」という項目については子供学習者の保護者・大人学習者ともに肯定的な回答が8割を超えるが、その一方で、「バレエは日本で文化として定着している」については否定的な回答も多い。日本ではレベルの高いバレエ教育が実現しているにも関わらず、学習者は社会的な認知の遅れを感じている傾向にあり、今後の環境整備の課題になるといえるのではないだろうか。



昭和音楽大学 舞台芸術センター

バレエ研究所

Ballet Research Center

バレエ研究所は、国内唯一の大学附属バレエ研究機関として、2006年に設立されました。海外のバレエ教育に関する最新動向を調査するかたわら、日本のバレエ文化の現状についても調査研究し、わが国に適したバレエ教育方法を整備・提案することを活動目的としています。

日本では現在、プロのバレエ・ダンサーを目指す人々だけでなく、幅広い年齢層・目的の学習者に対しバレエ教育が行われています。その一方、国立のバレエ学校やバレエ指導者の資格制度が存在せず、バレエ教育についての情報が共有されにくいという状況があります。当研究所では、こうした状況に鑑み、多角的なアプローチを用いて、バレエをめぐる社会的環境の整備と、未来のバレエ文化を担う人材の育成に向け、更なる研究活動の発展を目指します。

このアンケート調査は、2007年より**文部科学省 私立大学等経常費補助金特別補助（「教育・学習方法等改善支援」）**の採択をうけ、「日本のバレエ教育に適したバレエ教授法研究」の関連事業の一環として実施いたしました。このほかにも、各国のバレエ用語に関する調査・翻訳の実施や、海外よりバレエ指導者を招いての公開講座の開催など、着実に研究成果をあげてまいりました。

2008年からは、**文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業**（2008～2012年度）の採択もうけ、**「バレエ教育現場との連携による日本におけるバレエ教育システムに関する研究」**を推進しています。このプロジェクトでは4つのグループを設け、(1)バレエ・ダンサーの身体・心理特性に関する調査、(2)国内のバレエ教育普及状況に関する調査、(3)公開講座やシンポジウムを通じた海外のバレエ教育システムの紹介、(4)バレエ教育に関するアーカイブの構築、といった調査研究を進めております。

【成果公開】

○「平成19-21年度　文部科学省 私立大学等経常費補助金特別補助
『日本のバレエ教育に適したバレエ教授法研究』関連事業報告書」（2010年3月刊行）

○文部科学省 戦略的研究基盤形成支援事業については、ホームページにて随時最新情報を公開中
（http://www.tosei-showa-music.ac.jp/balletresearch/）

平成19-21年度
文部科学省 私立大学等経常費補助金特別補助
（「教育・学習方法等改善支援」）で実施した

公開講座一覧

2007年8月6日⇒10日

バレエ指導者のためのワークショップ ～バレエクラスの組み立て方について～

講師　ジャネット・ヴォンデルサール
●元オランダ国立バレエ団プリンシパル

2007年10月26日⇒28日

バレエ伴奏の役割と実際

講師　ジョナサン・スティル
●ロイヤル・アカデミー・オブ・ダンス音楽開発部長

2007年11月10日⇒11日

ロシアにおけるバレエ学校のシステムとテクニック

講師　千野 真沙美
●ボリショイバレエ学校出身、ロシア・バレエ団プリンシパル

2008年3月29日

フランスにおけるバレエ学校の教育システム

講師　リシャール・ペロン
●パリ・オペラ座バレエ学校出身、国際舞踊アカデミー（AID）事務局長・教育部長

2008年8月2日⇒3日

バレエ教育における インプロヴィゼーションの理論と実践

講師　ジョン-ユーゲ・アソート
●ベルリン国立バレエ学校・大学講師

2009年9月19日⇒20日

バレエ伴奏の役割と実際II

講師　ジョナサン・スティル
●ロイヤル・アカデミー・オブ・ダンス音楽開発部長

昭和音楽大学舞台芸術センター
バレエ研究所

〒215-0004　神奈川県川崎市麻生区万福寺1-16-6
Tel　044-953-9858
Fax 044-953-6652
ballet@tosei-showa-music.ac.jp
http://www.tosei-showa-music.ac.jp/balletresearch/

©昭和音楽大学　禁複製・無断転載　非売品

2010年3月発行